

# 日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 商会 No.20【連結会計 2】

収録日：平成 25 年 9 月 18 日

## 【出題実績】

日商出題傾向：117 回 (B/S・P/L)・126 回 (B/S・P/L)・131 回 (B/S・包括利益)・134 回  
会計学 128 回 (在外子会社)

全経出題傾向：152 回・156 回 (B/S)・159 回 (仕訳)・161 回 (精算表)

前回の講座で、各テキストの比較は掲載しておりませんが、との事でしたが、やはり掲載しておきます。

	検定簿記講義(商簿)	サク	スッキリ	教科書
ページ数	12	39	30	
持分法→段階取得	×	◎	◎	
包括利益	×	◎	◎	
退職給付	×	◎	◎	
子会社株式の追加取得	×	◎	◎	
子会社株式の売却	×	◎	◎	
関連会社株式の売却	×	◎	×	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い  
〔弱い〕は〔ない〕を含みます)

段階取得に係る差益（連結F/S上の特別利益）  
 段階取得に係る損失（連結F/S上の特別損失）

[例題]

次の資料にもとづいて、平成×5年3月31日の連結修正仕訳を示しなさい。

●資料●

1. P社のS社株式の取得状況は次のとおり。

取得日	取得原価	取得比率
平成×4年3月31日	¥3,500	10%
平成×5年3月31日	¥20,000	50%

2. P社、S社ともに決算は3月31日である。

3. S社の平成×4年3月31日と平成×5年3月31日の貸借対照表は次のとおり。

S社貸借対照表 平成×4年3月31日			
諸資産	40,000	諸負債	9,000
		資本金	20,000
		利益剰余金	11,000
	<u>40,000</u>		<u>40,000</u>

S社貸借対照表 平成×5年3月31日			
諸資産	43,000	諸負債	10,000
		資本金	20,000
		利益剰余金	13,000
	<u>43,000</u>		<u>43,000</u>

4. S社の平成×4年3月31日の諸資産の時価は¥41,000、平成×5年3月31日の諸資産の時価は¥45,000である。  
 5. 平成×5年3月31日のP社が所有するS社株式の時価は¥24,000である。

評価差額→段階取得差益（パッチェス法と同じ）→投資と資本の相殺消去（超重要）

S社株式 500 / 段階取得に係る差益 500

（子会社1社の時は連結PLないので利益剰余金をプラスする）

※税効果会計は適用しない（子会社株式の売却予定があればするが、買った段階では売却予定なしと考える）

を行ってS社株式の簿価を再計算してから、資本連結仕訳を行う

## 当期の連結修正仕訳

### [問題]

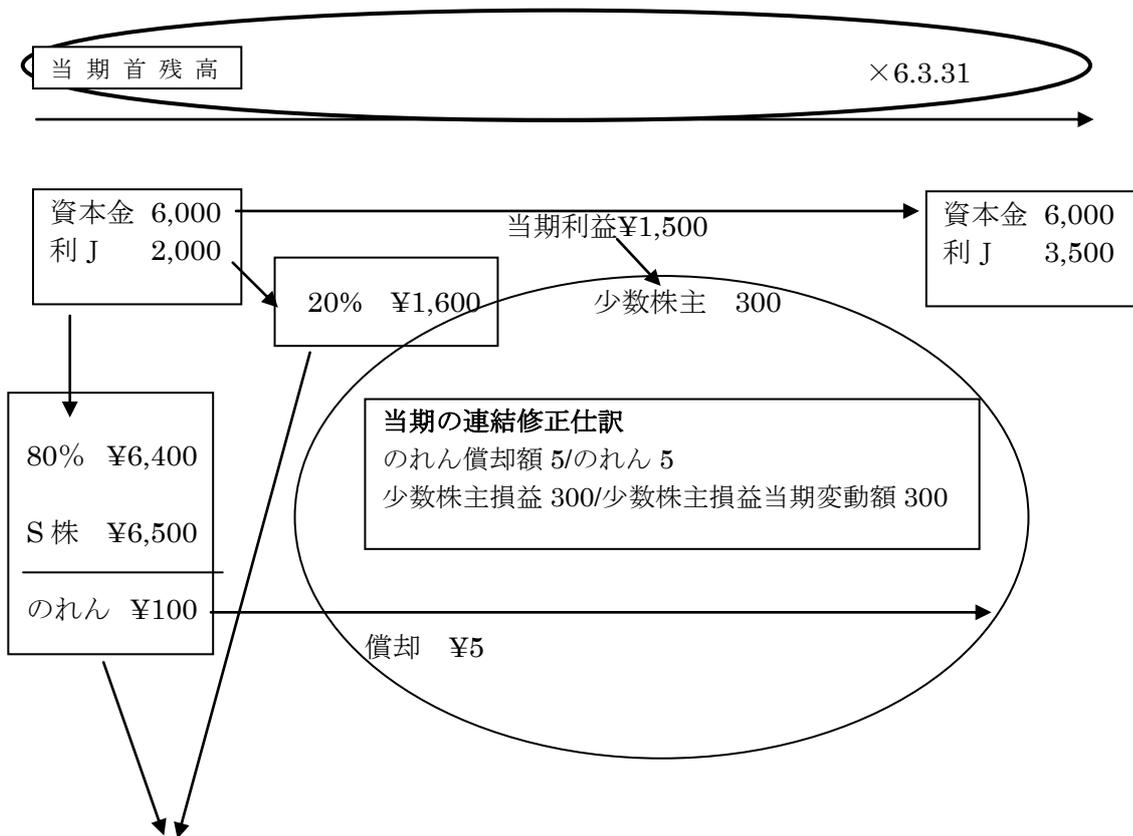
P社は平成×5年3月31日にS社の発行済株式(S社株式)の80%を¥6,500で取得し、支配した。以下の資料にもとづいて、当期(平成×5年4月1日から平成×6年3月31日)の連結財務諸表を作成するための、(1)連結開始仕訳と(2)連結修正仕訳を示しなさい。

### ●資料●

1. 平成×5年3月31日のS社の貸借対照表は次のとおり。なお、諸資産および諸負債の帳簿価額と時価は一致している。

諸資産	13,000	諸負債	5,000
		資本金	6,000
		利益剰余金	2,000
	<u>13,000</u>		<u>13,000</u>

2. P社、S社ともに決算日は3月31日である。
3. のれんは発生年度の翌年から20年間で毎年定額を償却する。
4. 当期にS社は当期純利益¥1,500を計上した。



この2つは2年目の連結時には開始仕訳となる

でも簡単

普通に仕訳して、純資産科目にはSS用に当期首残高をつければ良い

資本金当期首残高	6,000	/	S	株	6,500
利益剰余金当期首残高	2,000		少数株主持分当期首残高		1,600
のれん	100				

日商簿記1級131回のA社・B社の支配獲得時の仕訳を確認して下さい(10分程度)

ダウンロード講座で解説します。

連結2年目以降は、さらに当期の連結修正仕訳も開始仕訳に加える

但し、P L項目は前年分は繰越利益剰余金として個別 F/S に繰り越されているので、すべて利益剰余金当期首残高という科目で処理します。

①タイムテーブル②支配獲得時科目記載（利 J 空白）③のれん残高④少数持分残高⑤利 J 逆算

**[問題]**

P 社は平成×5年3月31日に S 社の発行済株式(S 社株式)の 60%を¥3,300 で取得し、支配した。以下の資料にもとづいて、当期(平成×6年4月1日から平成×7年3月31日)の連結財務諸表を作成するための、連結開始仕訳を示しなさい。

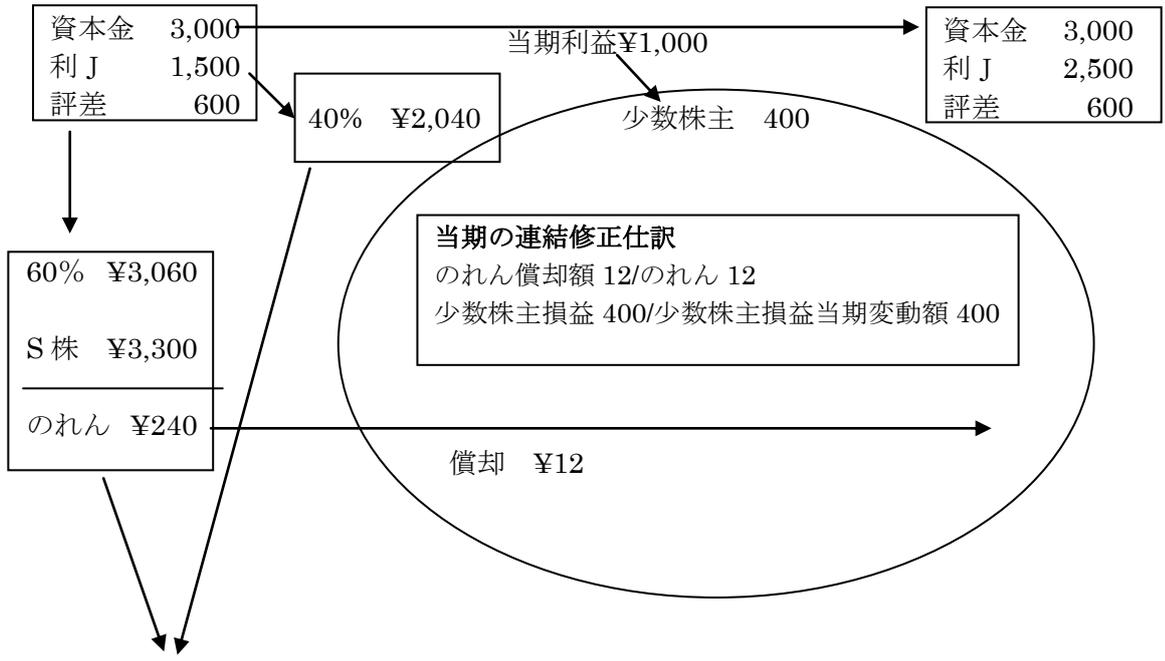
**●資料●**

1. 平成×5年3月31日および、平成×6年3月31日の S 社の貸借対照表は次のとおりである。なお、平成×5年3月31日の諸資産の時価は¥7,600 であり、諸負債の帳簿価額は時価と一致している。

S 社貸借対照表			
平成×5年3月31日			
諸資産	7,000	諸負債	2,500
		資本金	3,000
		利益剰余金	1,500
<hr/>		<hr/>	
	7,000		7,000

S 社貸借対照表			
平成×6年3月31日			
諸資産	8,000	諸負債	2,500
		資本金	3,000
		利益剰余金	2,500
<hr/>		<hr/>	
	8,000		8,000

2. P 社、S 社ともに決算日は3月31日である。
3. のれんは発生年度の翌年から20年間で毎年定額を償却する。



この2つは2年目の連結時には開始仕訳となる

でも簡単

普通に仕訳して、純資産科目にはSS用に当期首残高をつければ良い

資本金当期首残高	3,000	/	S	株	3,300
利益剰余金当期首残高	1,912		少数株主持分当期首残高		2,440
評価差額	600				
的れん	228				

税効果会計もイメージしてみましょう

土地 600 / 評価差額 360  
 繰延税金負債 240

P 1 4 8 の基本問題

【問題】

P 社は平成×5 年 3 月 31 日に S 社の発行済株式(S 社株式)の 80%を¥3,000 で取得し、支配した。以下の資料にもとづいて、当期(平成×6 年 4 月 1 日から平成×7 年 3 月 31 日)の連結財務諸表を作成しなさい。

●資料●

- 平成×5 年 3 月 31 日および、平成×6 年 3 月 31 日の S 社の貸借対照表は次のとおりである。なお、平成×5 年 3 月 31 日の土地の時価は¥800 であり、その他の諸資産、および諸負債の帳簿価額は時価と一致している。

S 社貸借対照表			
平成×5 年 3 月 31 日			
諸資産	2,000	諸負債	700
土地	500	資本金	1,300
		利益剰余金	500
	<u>2,500</u>		<u>2,500</u>

S 社貸借対照表			
平成×6 年 3 月 31 日			
諸資産	2,500	諸負債	900
土地	500	資本金	1,300
		利益剰余金	800
	<u>3,000</u>		<u>3,000</u>

当期の P 社と S 社の個別財務諸表は次のとおりである。

P 社貸借対照表			
平成×7 年 3 月 31 日			
諸資産	5,000	諸負債	3,500
土地	2,000	資本金	4,500
S 社株式	3,000	利益剰余金	2,000
	<u>10,000</u>		<u>10,000</u>

S 社貸借対照表			
平成×7 年 3 月 31 日			
諸資産	2,800	諸負債	900
土地	500	資本金	1,300
		利益剰余金	1,100
	<u>3,300</u>		<u>3,300</u>

P 社損益計算書		
自平成×6 年 4 月 1 日 至平成×7 年 3 月 31 日		
諸収益		2,500
諸費用		1,500
当期純利益		1,000

S 社損益計算書		
自平成×6 年 4 月 1 日 至平成×7 年 3 月 31 日		
諸収益		900
諸費用		600
当期純利益		300

- P 社、S 社ともに決算日は 3 月 31 日である。
- のれんは発生年度の翌年から 20 年間で毎年定額を償却する。

